

淀川水系流域委員会殿

平成16年8月20日
 「関西のダムと水道を考える会」
 (代表) 野村東洋夫

大阪府営水道の「現況」と「水資源開発計画」

大阪府営水道(大阪府水道部)のH1年から最近までの「一日最大給水量」「一日最大取水量」「一日平均給水量」の状況は[資料1]のグラフの通りであり、一日最大給水量(=1年365日の内で通常7月か8月に発生するピークの日の給水量)は200万m³前後で推移しています。もう少し詳しく見れば、記録的な猛暑だったH6年は211.5万m³を記録しましたが、その後は200万m³を下回る年が多くなり、H15年に至っては177.6万m³にまで落ち込んでいます(H13年に210.0万m³に跳ね上がった理由は不明)。

次にダム(水利権)に直接関係する「一日最大取水量」は、浄水場や送水過程などでロスが発生するために通常は上記の「一日最大給水量」を若干上回りますが、これもH6年とH13年は215万m³程度の高い値を示したものの、他の年は「一日最大給水量」と同様に横這い又は減少傾向にあります。

「一日平均給水量」の方は1年間の総給水量を365日(又は366日)で割った値であり、これはその夏の気温などにより大きく左右される「一日最大給水量」とは異なり、水需要の基本的なトレンドを忠実に反映する指標ですが、ご覧のようにこれはH6年以降、明らかに漸減傾向にあります。

ではこのような状況にある大阪府営水道の「水利権」の方はどうでしょうか？

「日吉ダム」の完成によりH10年度より水利権を日量で222.8万m³に増やした同水道は、H15年に暫定運用を開始した「紀の川大堰」により2.5万m³を増量し、現在は上水道用として225.3万m³の水利権を保有しており、近年の「一日最大取水量」を上回る水準となっていますが、更に大阪府は今年3月に解散した「大阪臨海工業用水道企業団」の淀川に対する水利権の内の12.7万m³を68億円で買い受けており、これの上水への用途転用が河川管理者に正式に認められれば、同水道の水利権合計は238万m³に達することになります。他方、人口の減少や高齢化、節水意識の向上などにより、大阪府の上水の需要が今後、下がることはあっても大幅に増大することは考えられませんから、これだけの水利権を確保しておけば充分であると言えます。

にも拘らず大阪府がH13年3月に行った水需要予測によれば、H22年における水需要(計画給水量)は253万m³に達するとしており、これにロスを見込んだ269万m³(=31.139m³/s)を「計画水利権」(計画取水量)としているのです(→資料2-3)。このため大阪府

の水資源開発計画はこの計画値をクリアするために、日量にして次ぎのような内訳となっています。

「紀の川大堰」までの開発水量	2,253,000m ³
大阪臨海の転用	127,000
	(小計) 2,380,000
安威川ダム (大阪府営ダム)	76,000
大戸川ダム	35,000
丹生ダム	214,000
	(合計) 2,705,000m ³

つまり今後、更に安威川ダム・大戸川ダム・丹生ダムに参画することで、トータル 270.5 万 m³ の水利権を獲得するというものです。

しかしこれが過大な水資源開発であることが余りにも明らかであるため、ついに大阪府は昨年、丹生ダム・大戸川ダムからの撤退を表明すると共に (→資料 3)、府営ダムの安威川ダムについても現在検討作業に入っている所です。

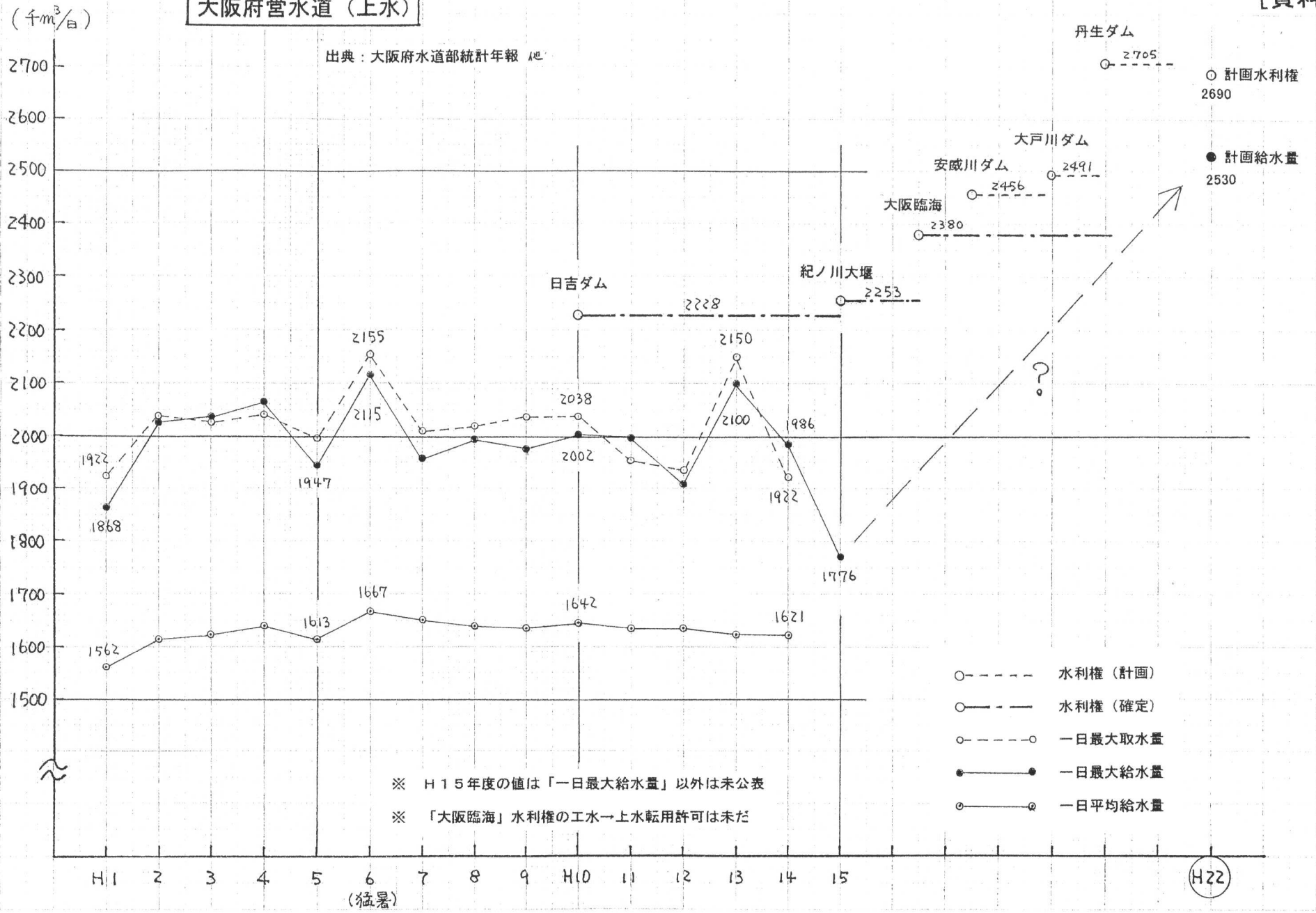
以上のことから私達も大阪府営水道については「大阪臨海」までの水利権 238 万 m³ で将来ともに充分であり、安威川ダム・大戸川ダム・丹生ダムへの参画は全く不要と考えております。

(以上)

[資料 1]

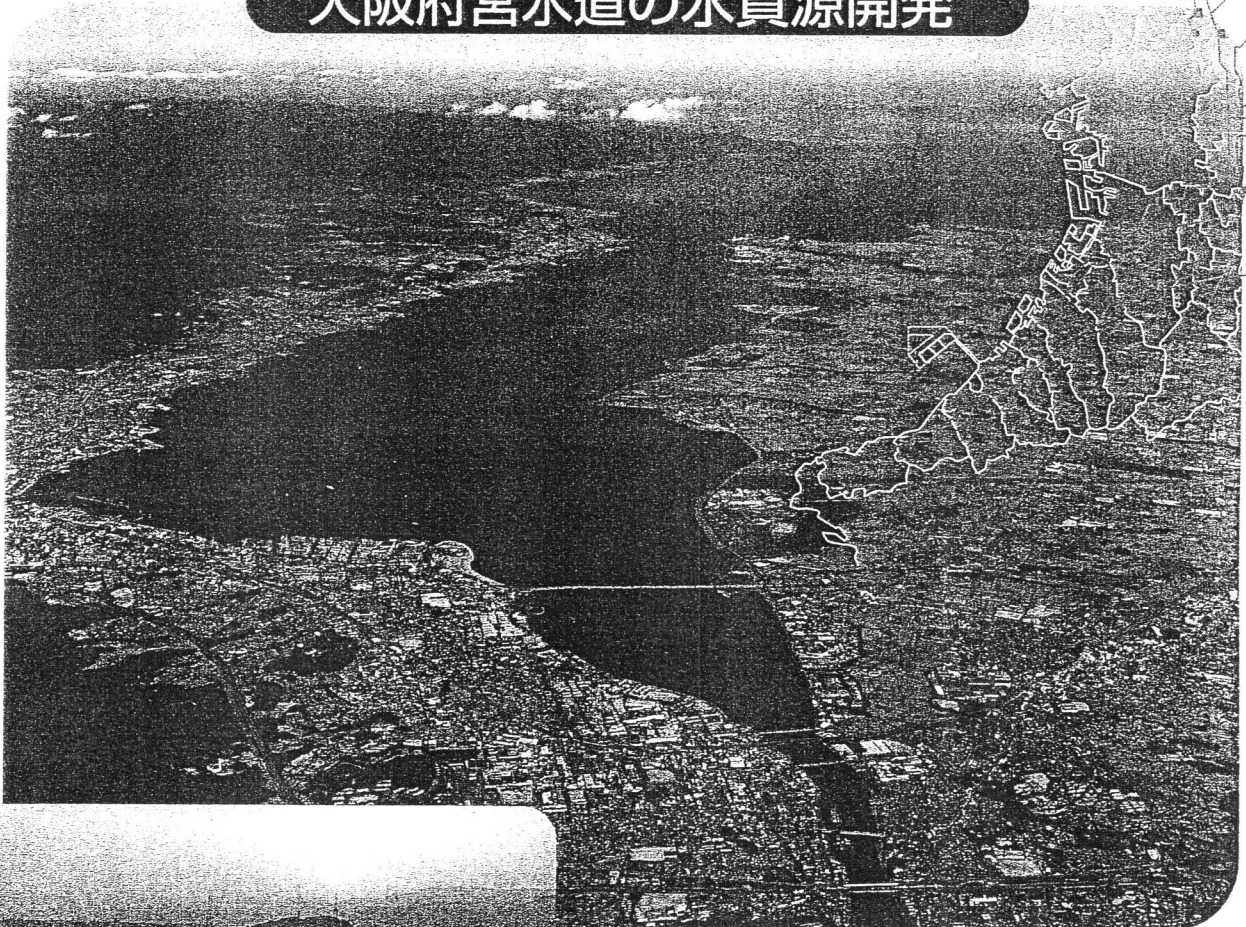
大阪府営水道 (上水)

出典：大阪府水道部統計年報 他

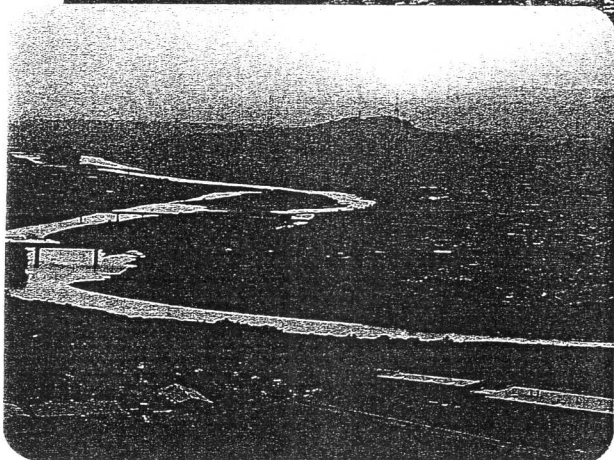


安定した水道水の 供給をめざして

大阪府営水道の水資源開発



琵琶湖



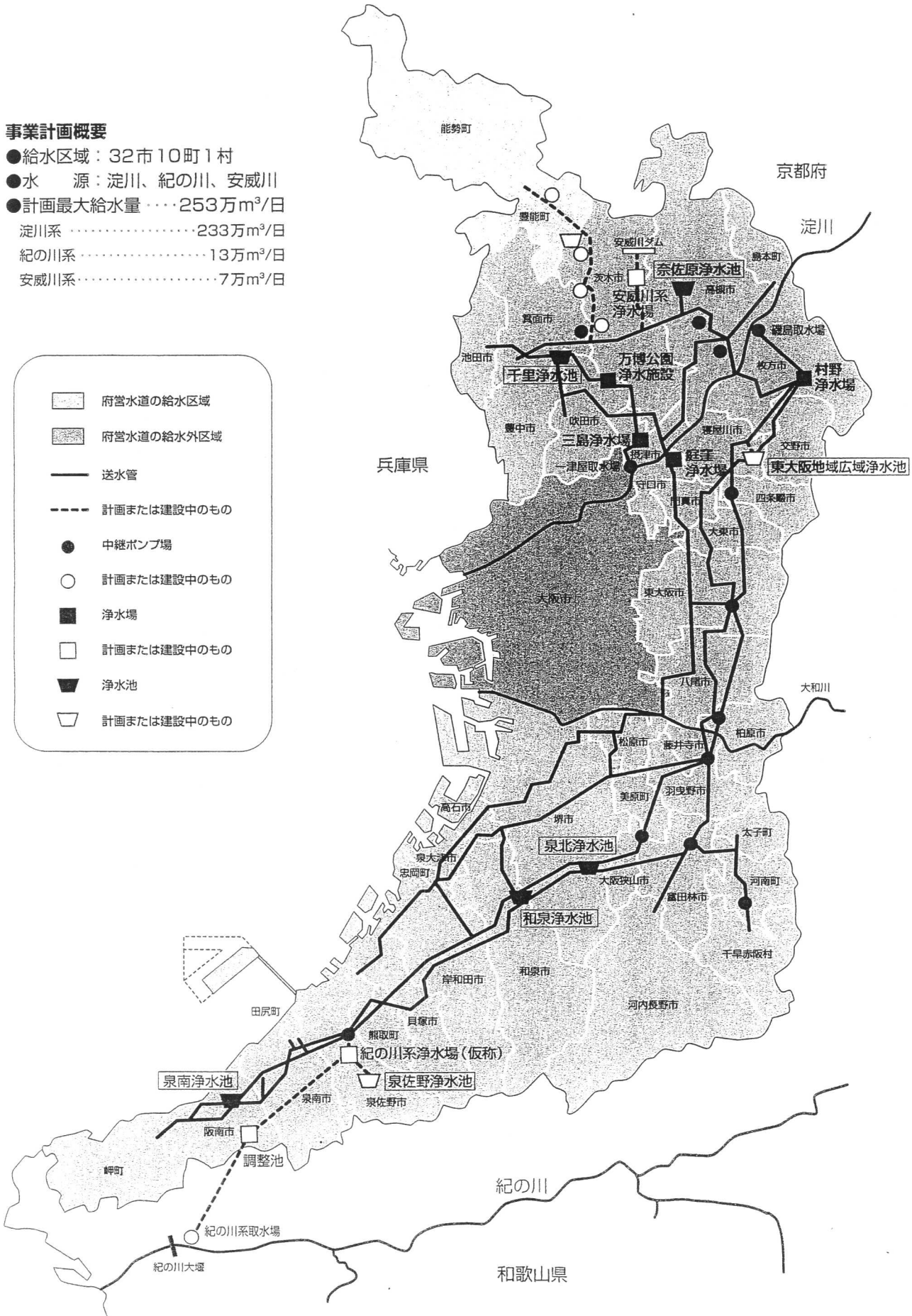
紀の川

大阪府営水道の給水図

事業計画概要

- 給水区域：32市10町1村
- 水 源：淀川、紀の川、安威川
- 計画最大給水量 …… 253万m³/日
 - 淀川系 …… 233万m³/日
 - 紀の川系 …… 13万m³/日
 - 安威川系 …… 7万m³/日

- 府営水道の給水区域
- 府営水道の給水外区域
- 送水管
- 計画または建設中のもの
- 中継ポンプ場
- 計画または建設中のもの
- 浄水場
- 計画または建設中のもの
- 浄水池
- 計画または建設中のもの



水資源の開発

将来の水需要に備えるとともに、震災や渇水にも強い水道とするため、新たな水資源の確保が重要です。

将来の水需要への対応

府営水道の給水人口は、今後、わずかながら増加すると予測され、また、世帯数の増加やトイレの水洗化が今後さらに進むことなどにより、使用水量の増加が見込まれています。

また、府内の市町村が持っている水道水源には、水質や水量が不安定なものがあり、これらが府営水道に切り替わっていくことも予測されます。

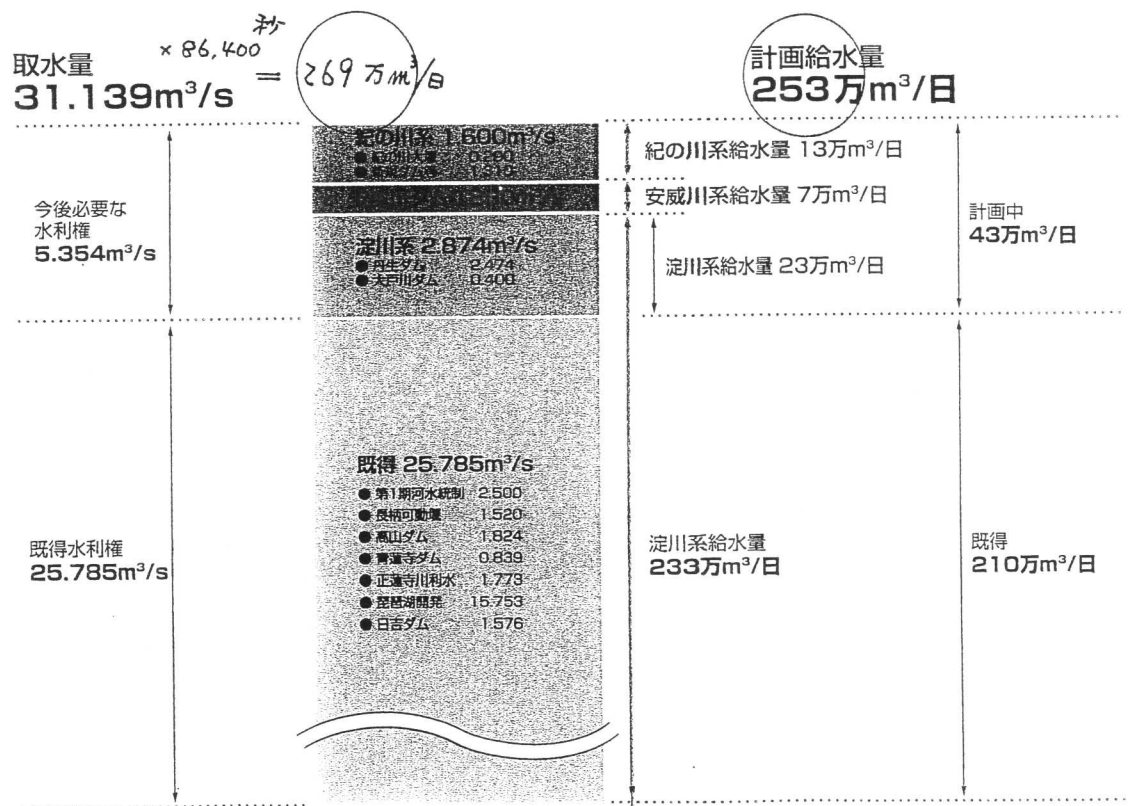
このため、府営水道の水需要は今後も増加し、平成22年度には1日最大給水量253万m³を確保する必要があります。

府営水道の水資源計画

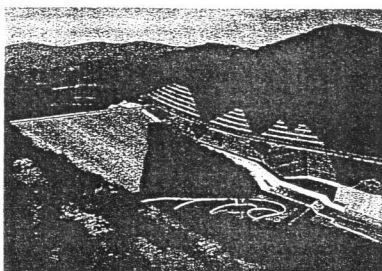
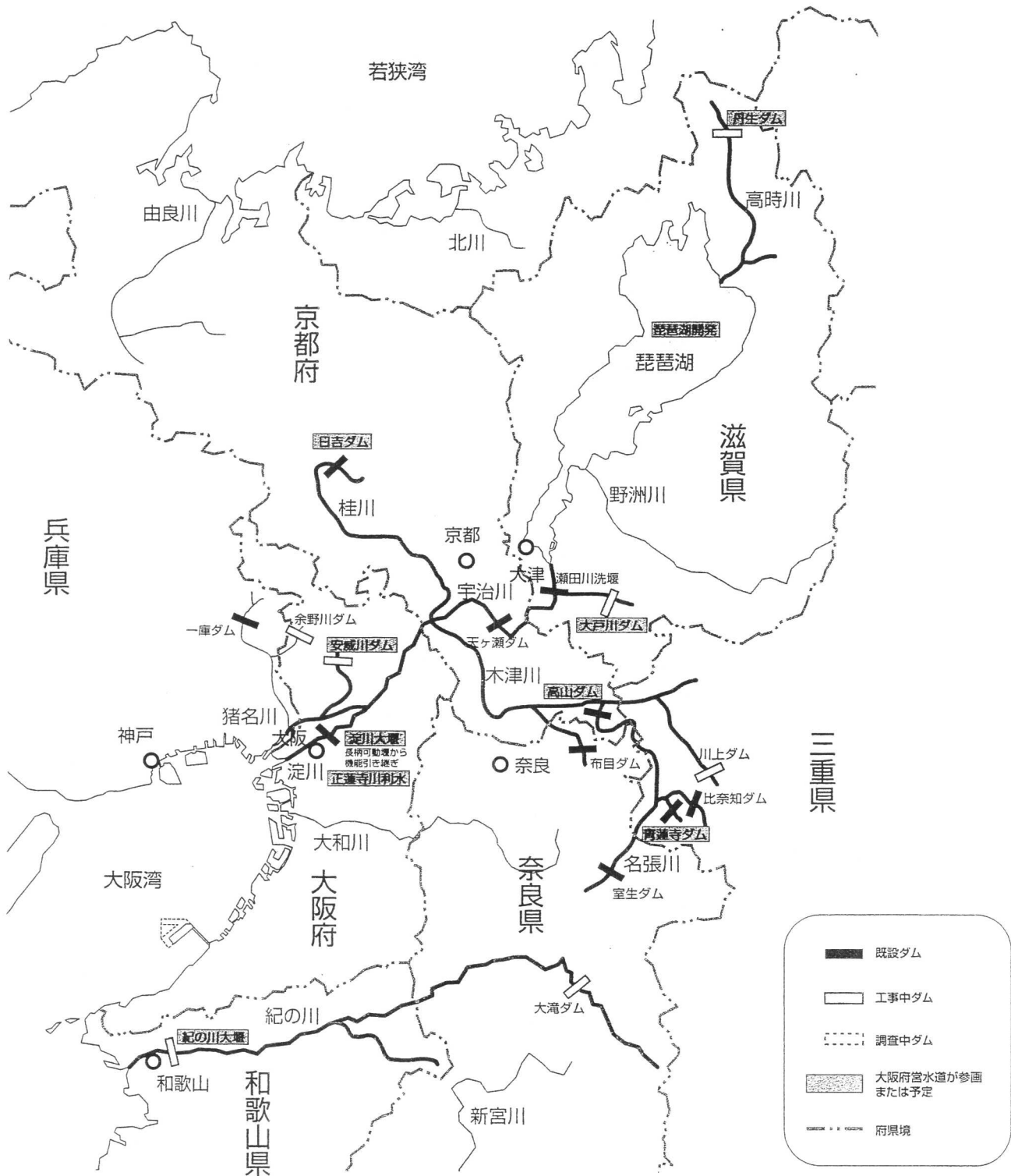
1日最大給水量253万m³のうち、これまでの水資源開発により、現在淀川系で約210万m³分の水利権を確保していますので、残る43万m³を新たに求める必要があります。

水資源の開発には、計画から完成まで非常に長い年月を要します。このことから、将来の水需要に対応するため、計画的かつ先行的に事業を進めることが重要です。

		大戸川ダム	丹生ダム	安威川ダム	紀の川大堰
施工主体		建設省	水資源開発公団	大阪府	建設省
ダム	形式	重力式	ロックフィル	ロックフィル	可動堰
	堰高(m)	92.5	145.0	82.5	7.1
貯水池	集水面積(km ²)	153.5	93.1	52.2	1,620.0
	総貯水容量(千m ³)	33,600	150,000	22,900	5,100
開発水量(m ³ /s)		0.510	3.230	0.880	0.290
大阪府分(m ³ /s)		0.400	2.474	0.880	0.290



水資源開発事業計画の概要図



安威川ダム(建設中)完成予想パース



日吉ダム(平成9年度概成)



紀の川大堰(建設中)

